

No. 1073

酷暑修行

連日のうだるような暑さの中で海岸は、どこも、涼を求める人でいっぱい。こんな酷暑の中でこそ体をきたえ、技を磨こうとある空手の会の合宿が千葉県一の宮海岸で行なわれました。

総勢 250 名。女子も参加して暑さも何のその。

浜辺で砂をふんでの大奮闘。基礎訓練に組手の乱どりに若さがおどる。強くなりたいという願望を抱いて修練に励む彼等。

握力をきたえるために木にのぼったり、度胸をつけるために 5メートルもの高さからとびおりたりきびしい修練が続く。

一練習が終ればグッタリ疲れて全員昼寝。夜に入れば夜で又技の訓練が待っている。

正拳で燃える板を割ったり、足げりで割ったり、更には、とびけりの構えで火の輪をくぐる。バランスと度胸をつけるためだという。全身の肉体を武器としてきたえあげる空手の修練。一日が終わり又一日が始まる。誰もいない夜明けの浜辺に彼等のかけ声が響きわたる。

暑さも苦しさも忘れて今日も彼等は修練に励む。

激震のあと

— 南 伊 豆 —

去る五月九日、マグニチュード 6.8 の激しい地震にみまわれた南伊豆町仲木地区。あれから 3 ヶ月、そのきずあとは今も生々しく、むきだしのままだ。激震のつめあとの中を、あたかもそこが新名所であるかのように海水浴客が行きかう。被災者は、八畳一間だけのプレハブの仮住まいを続けている。民宿が生活の糧をえるすべてであったこの地区、しかし今、民宿をしようにも家を失い、サザエ、アワビ、テングサ採りなど僅かばかりの漁業にすがって、細々と生活をささえている。

仲木と山をひとつへだてた隣の入間地区、そこも七四戸の民家ほとんどが壊滅的打撃を受けた。ここでは民宿の再建があらこちらで進められ、早くもつめかけた海水浴客で超満員、室からしめだされた老人や子供の姿があった。

激震のあと、無神経な観光客の姿がやたら目につく南伊豆のこの頃だ。